城山会会報
第51号

同窓会事務所
〒811-4192　福岡県宗像市赤間文教町１－１
福岡教育大学同窓会　城山会事務局
TEL／FAX　0940-33-2211
e-mail　jouyamakai@able.ocn.ne.jp
発行者　会長　太田　勝視
発行日　令和２年12月25日
印刷所　松古堂印刷株式会社

今こそ確かな同窓の絆を！

会長　太田　勝視

2020（令和２）年２月９日北九州市・京築地区のお世話で行われた「新年の会」、２月16日女性部主催の「２月のつどい」の実施を最後に、城山会本部・支部・支会活動のほとんどをストップせざるを得ませんでした。新型コロナウィルス感染拡大が続き、同窓会事務局運営も厳しい状況でありました。そのような中、新年度のスタートを迎えました。４月７日緊急事態宣言が発令され新型コロナウィルス感染も第１波という状況であり、３密を避けるためにも年度初めの総会も書面会議でしか行えませんでした。前例のない対応に各支部・支会の皆さまのご理解とご協力を頂きましたことに感謝を申し上げます。

母校教育大においてもたいへんな状況であったと思います。学内への入構禁止措置、５月11日から実施の授業も６月26日まで全てオンライン授業、教職員の勤務態勢、コロナ禍の中で困窮する学生支援等々であります。城山会としても大学支援・学生支援のため何が出来るか考えましたが、外出自粛等のためそれも思うようには出来ませんでした。

自粛状態のまま９月を迎え、感染状況が少し落ち着いてきたように感じましたので、各支部・支会活動の再開を図るため地区ごとの拡大支会長会の計画を致しました。もちろん新型コロナウィルスの感染・発症を抑える方法の徹底が大前提です。この会議を受けて、各支会は支会長を中心に、コロナ禍における同窓会活動のあり方について考えていただきました。

各支部・支会役員、そして会員の皆さま、「学生生活の困窮や学業への支障等が出ている現状」「長期休校等による影響が心配される中で、熱い思いを持って頑張っておられる先生方がたくさんいらっしゃる教育現場」など、城山会の私たちは今何が出来るのかを真剣に考えなくてはなりません。その観点として

○初任者・若年会員、青年部活動への支援
　新採者激励、若年会員の悩み相談･支援体制、講師への激励
○支部・支会の組織体制の確立
　組織内連絡体制、情報機器の活用
○大学改革への支援と協力
　大学基金への寄付の推進
○学生への支援
○会報の発行、確実な配付

等があげられます。更に、母校教育大は、教員養成機能における広域の拠点的役割を目指す改革が進められています。教員就職率90パーセントを達成する目標があります。教員採用試験本学学生の合格状況も年々向上しています。同窓会としても2021（令和３）年度３月末教員就職率90パーセント目標達成に向けて、後援会との連携もとりながら、引き続き積極的に支援して参りたいと考えています。

終わりに、季節の移り変わりは早いものです。深緑だった樹木もそれぞれの秋色に染まり四季の彩りを目にしていたら、いつの間にか、急に寒くなって参りました。またまたコロナの第３波が心配されます。いつになればコロナ禍が収束し、社会が正常化するのか、先行きはまだ見通せません。でも、私たちには一緒に学んだ多くの仲間がいます。たくさんの絆があります。この大切な絆を確かめ合いましょう。一日も早い安心安全な暮らしが訪れることを願いながら、会員の皆さまのご活躍とご多幸を祈念し、挨拶とさせていただきます。

城山会の皆様へのごあいさつ

福岡教育大学　学長　　飯田　慎司

本年４月１日より本学学長を務めております。どうぞよろしくお願い致します。

本学の基本的な目標は、豊かな知を創造し、教育実践力にあふれた教員を養成することです。教育は国の根幹をなすものであり、その教育に携わる有為な教員を養成するという使命を、自信と誇りをもって果たすことができるように、大学の運営と経営にあたります。

６年間に渡る第３期中期目標・中期計画が平成28年度から始まり、本年度はその５年目になります。本学は、義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域の拠点的役割を目指すことを基本的目標として掲げ、90％の卒業生が教職（正規採用に加えて臨時的任用も含める）に就くことを目指しています。

学部についての令和元年度卒業生の実績をご紹介しますと、学校教育３課程（初等教育教員養成課程・中等教育教員養成課程・特別支援教育教員養成課程）の最終合格者は345名であり、この数は、第２期中期目標・中期計画期間の最終年度であった平成27年度の160名からは倍増しており、直近の平成30年度（231名）と比べても、114名の増加となっています。臨時的任用を含めた教員就職率（平成27年度：68.6％）も大幅に上昇して80％台に突入してきており、目標の90％まであと少しです。

さて、新型コロナウイルス感染拡大により、今年度前期の授業は大きな影響を受け、５月11日から開始した授業はすべてオンラインの遠隔によるものとしました。６月中旬以降に段階的に開始した対面の授業では、手洗いの徹底、マスクの着用、換気やアルコール消毒、密接を避ける座席配置、検温や体調の事前把握等に万全を期しています。また、食堂や図書館等の使用についても、「新しい生活様式」をキャンパスライフに当てはめて、学生と教職員全員の意識改革をお願いしております。

今年度から来年度にかけて、小学校の教科担任制への対応、中等学校教員養成の改革、そして教職大学院の拡充等を柱とする教員養成教育の充実のために、第４期の中期目標・中期計画の策定およびその達成のための基盤を作っていきます。また、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しながら、教育・研究・社会貢献・学内運営の各面において、オンラインの利点を活用する一方で、対面で行うべき活動の要点や効果を再確認します。そして、授業を中心とする教育面はもちろんのこと、その他の面においても、対面とオンラインとを適切に取り入れるというハイブリッド的な工夫を行っていきます。

新型コロナウイルス感染の一日も早い収束を願いながら、教員養成のさらなる充実に向けて、本学をさらに発展させて参りますので、城山会の皆様には、本学の取り組みへのご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

総会だより

定期総会について

第45回定期総会は、令和2年４月29日(水)11時より福岡市博多区の「博多サンヒルズホテル」において開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により一堂に会することを避けるため書面会議となりました。総会議案書は5月上旬に事務所より総会参加予定者に郵送するとともに、県内28の支会長及び6県の支部長宛てには「定期総会議案に対する評決書（返信用）」を併せて送付し、5月30日までに回答を集約いたしました。その結果、議事は第１号議案から第５号議案まで原案通り可決というものであり、9月19日（土）に開催した第1回役員会においても報告されました。　（幹事長　田中和隆）

コロナ禍における大学の取組

本学の学びは、理論と実践の往還を経て学修を深め、教師の資質や能力を身に付けることが重要です。誰もが経験したことのないコロナ禍に直面する困難な状況の中、学生の将来を見据え大学運営や授業を工夫し、どのように学修させてきたのかを後世に残す必要があります。今回は副学長･相部保美氏、キャリア支援センター長・生田淳一氏に寄稿して頂きました。

（副会長　谷　友雄）

コロナ禍での学生への支援

福岡教育大学　理事・副学長　**相部　保美**

大学は新型コロナウイルス感染拡大で、授業や経済的に打撃を受けた学生への対応など、これまで経験のない課題と向き合っています。このような状況下で、大学が取り組んできたことについて報告します。

授業については、当初４月６日から前期授業開始でしたが、授業開始日を５月11日に変更し、５月11日から６月26日までの授業を全て遠隔授業で実施することとし、実験・実習・実技科目など、全て遠隔授業で実施することが困難な科目は、後期もしくは次年度に開講期を変更しました。緊急事態宣言解除後は、６月15日から実験・実習の一部科目を対面の形態で開始し、さらに６月29日から対面授業を順次開始しました。その結果、約６割の科目が対面授業、残りの４割が遠隔授業で行っています。対面授業開始にあたっては「新型コロナウイルス感染拡大防止と対面授業の受講に係るガイドライン」を定め、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、授業を行っています。後期についても、前期と同様に遠隔授業と対面授業を併用しながら実施しているところです。

学生への経済的支援については、本学独自の支援として、保護者等の家計急変や学生のアルバイト収入減などで生活が困窮している学生に対して、就学支援金（鶴陽会からの寄付金）を原資として１人あたり３万円の生活支援金の給付を575名に行いました。さらに、遠隔授業実施に伴う教科書の宅配販売の送料等を福岡教育大学後援会及び大学で支援しました。また、文部科学省からの支援として、収入の大幅な減少により大学等での就学をあきらめることがないよう現金を支給する学生支援緊急給付金給付事業があります。本学もこの事業への募集を行い、申請した学生を支給対象者として現金給付の支援を行いました。

今後も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学一丸となって取り組んでいきますので、本学の取組へのご理解・ご支援をよろしくお願いします。

コロナ禍における学び

キャリア支援センター長　**生田　淳一**

このような事態を誰が想像していたでしょうか。危機管理が足りないと言われれば、そうなのかもしれませんが、すべて想定外。大学も急遽、遠隔授業などに取り組みながら、手探りでの教育活動を続けています。不十分な点もあるかもしれませんが、私自身、慣れない遠隔授業の準備に追われながら、「教える」とは、「学ぶ」とはどういうことなのか、改めて突きつけられる日々でした。

そんな中、学生の教職への熱意を感じることができたことは、本当に励みになりました。３年生は教育実習、４年生は教員採用試験に向けて、感染症対策を十分に行いながら、例年と変わらず、それぞれの課題と真摯に向き合う姿がありました。そんな学生を最前線で支えてくださったのは、本学の特命教授の先生方でした。学生の安全を守りながら、これまで以上に温かいご指導をいただきました（本学では10名の特命教授が、キャリア支援アドバイザー、教育実習コーディネーター、ボランティアコーディネーターとして活躍されています)。そして、教育実習生を例年通り受け入れてくださった協力校や附属学校の皆様にも、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

学校再開後、先生方は子供たちをしっかり受け止めてくださいました。心より感謝いたします。迫る脅威から子供たちを守り、その中でも一人一人の可能性を引き出そうとされる先生方の取組は、子供たちの希望を大きく育てています。「コロナ禍であっても、やることは一緒。子供たちのために、いまできる最善を尽くすだけ。」とがんばっておられる、そんな先生方の姿に勇気づけられています。学生には、「先生方のようにどんなときもチームで乗り切っていける教師になってほしい。」といつも言っています。私たちも負けてはおれません。学生のため、いまできる最善を尽くし、学生の希望を大きく育てていきます。

密を避け、マスクを付けて
模擬授業をする学生

わたしの教育実践 ～コロナ禍の中で～

感染症対策を講じながらの教育活動

福岡市立西長住小学校　校長　鶴田　千詠子　S62卒

西長住小学校は福岡市南区の閑静な住宅街に位置しています。全校児童268名、学級数13です。児童数が少ないこと、肢体不自由と知的障がいの２つの特別支援学級があることから、児童はお互いをよく理解し合い、穏やかな学校生活を送っています。一方で、児童が自分の力を十分に発揮できていないことに課題を感じ、第２次福岡市教育振興基本計画に合わせ、学校教育目標を「自ら学び、やさしさとたくましさをもち、目標に向かってねばり強く取り組む、人間性豊かな子どもの育成」と設定しました。

西長住小の自慢として、全児童で取り組んでいるのが「挨拶・掃除・靴そろえ」です。特に挨拶については４つのレベルを提示し、全校集会で自分のレベルを確認する場をとっています。また昨年度までは、児童会のいじめゼロの取組と合わせ、毎月３回の「ハイタッチロードの日」に、ハイタッチしながらの挨拶運動を行っていました。そして地域の方とも親しく挨拶をすることができました。

昨年度末にコロナ禍が始まり一斉休校となり、その後、感染症対策を講じながらの今年度が始まりました。児童の安全をどう守るか、校長としてまずやるべきことは情報収集でした。近隣校や同窓の校長先生方からいただいた情報をもとに、本校での対策を提示し、職員と話し合いを重ねながら一歩一歩進めています。

ハイタッチロードは、感染症対策から今年度は実施できていませんが、ハイタッチをしない分、丁寧におじぎをしながら挨拶する児童が増えました。今までの積み重ねと全職員による指導の成果です。全校集会もリモートとなりましたが、パソコン画面の中ですが、挨拶がレベルアップしたと喜ぶ児童の笑顔を、たくさん見ることができています。

感染症対策を講じながらの教育活動の中でも、児童が自分の力を十分発揮できるよう、教職員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

ハイタッチロードの日

将来のグローバル人材の育成を目指して

福岡県立京都高等学校　武吉　大輔　H17卒

新規採用教員として赴任して今年で９年目です。本校は平成27年度から５年間、文部科学省よりＳＧＨ（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受けました。現在は「京都（みやこ）グローバル人材育成プロジェクト」として、授業・課題研究・進路学習・学校行事等、教育活動相互のつながりを重視しながら、生徒の希望進路の実現や社会で活躍する人材を育成することを目指しています。

私はＳＧＨ指定前からこの業務に携わってきました。この経験から大きな財産を２つ得ることができました。１つ目は、人とのつながりです。研修会や成果発表会等で県内のみならず、全国の先生方と意見交換をすることができました。また、高大連携を通して大学の先生方と情報共有をすることができ、生徒のフィールドワークを通して地域の方々からの期待も感じることができました。以前は校外や休日の研修会に参加することはほとんどありませんでしたが、現在はアンテナを高く張って積極的に参加しています。特に今年はオンラインでの講演会や研修会が増え、そこで得たものを生徒に還元できるように努めています。

２つ目は、生徒の成長が目に見えて分かる点です。本校では独自のポートフォリオ冊子「Plus One」を活用しています。教育活動全体を通して活動の節目に自己評価を行い、次の活動や日頃の学習に関連させながら、自分の成長の記録を「見える化」するものです。生徒は日頃の教育活動や課題研究、校内外の体験活動で得た経験を語れるようになります。このことが希望進路の実現に向けて、生徒の意欲の向上につながっていると感じられます。

今後は教育に携わる者として、授業をはじめ様々な教育活動の中で生徒の主体性をより育んでいきたいと考えています。加速度的に変化が激しくなっている世の中において、生徒が10年後、20年後にそれぞれの舞台で活躍できるように自分自身が常に研鑽を積み、日々努力をして参ります。

生徒による研究成果の報告

学生生活は今

コロナ禍での自己研鑽

初等教育教員養成課程　３年　城崎　優真

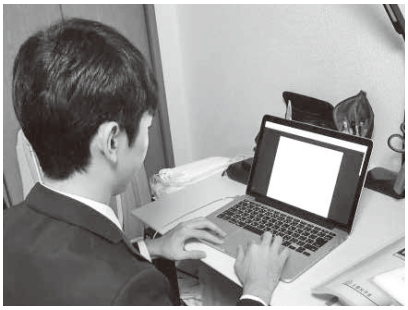
今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年とは異なる大学生活を送ることになりました。具体的には、オンライン授業の導入、Zoomを使ったサークル活動、感染リスクを抑えたボランティア活動など多様な変化がありました。

まず、オンライン授業について、最初は若干の戸惑いがありました。しかし、オンデマンド方式でいつでも授業動画を見ることができたので、自分のペースで勉学に励むことができたと思います。また、いつもよりレポートを書く量も増えたため、対面授業とは異なる視点で、自分自身の成長を見つめる機会も増え、現在の自分がどのように教育について考えているのか等、多くの気付きを得ることができました。

次に、私の属しているクイズ研究会のサークル活動では、Zoomを用いての活動を行いました。Zoomを利用することで、サークルメンバーにクイズを提供するにあたって、パワーポイントの資料が見やすくなったり、BGMを付けることができたりとオンラインならではの新たな楽しさを見いだすことができたと感じます。

そして、私はこの期間に小学校へ学習支援のボランティアにも行きました。実際にコロナ禍に現場の小学校に行くことで、どのような感染対策が行われているか等、様々な学びがあると考えたからです。小学校を訪れると、狭い教室の学年は音楽室や図工室に移動したり、給食は静かに準備して食べたりなど多様な感染対策がされており、子どもの安全を確保しつつ、子どもが楽しんで日々学ぶことができるように環境を整えるなど、多くのことを学びました。ここでの経験は、９月に行われた教育実習でも、生かすことができたと思います。

このように、コロナ禍という過酷な環境ではありましたが、前向きに多彩なことに挑戦することで、普段見えないものを見いだすことができました。コロナ禍で得た学びを、これからの生活に生かすことができるよう日々邁進していきたいです。



オンライン授業の様子

コロナ禍であるからこそ学べたこと

中等教育教員養成課程　家庭専攻　３年　日浅　理香

私は家庭科が小学生の時から好きで、これからの生活にとても役立つ家庭科の学び、その面白さを子どもたちに伝えたいと思い、教師を目指すようになりました。そして福岡教育大学に入学してから、教員として必要な能力や知識を得ながら、教員に向けて日々努力してきました。

今年度はコロナ禍ということもあり、例年通りに実習を行うことができなかったり、対面授業を行うことができなかったりしました。しかし、この状況であったからこそ、教育実習や普段の生活から学べたことも多かったです。

１点目は、その時の状況に合わせて臨機応変に対応する力です。コロナ禍であり、普段できるような活動をすることができず、教育実習での授業づくりも苦戦しました。しかし、その時々の状況に合わせて、どのようにすることが適切かを考えることができました。距離を保ちながらできる活動を取り入れたり、授業の教具も全員分配るようにしたりするなどの工夫をしました。

２点目は、情報を取捨選択する力です。コロナ禍は人々を不安にさせ、様々な情報を鵜呑みにしてしまうというような状況がありました。その情報が正しいかどうかを自分で判断し、その情報を再度調べ、よく考えることが大切であることを学びました。これらの力は教員になった際にも、とても役立つ力だと思います。

私たちが暮らす社会は日々変化しています。予測が困難な時代だからこそ、子どもたちにはその時々の状況に向き合い課題を設定し、自分が持っていたり学んだりした知識等を活用して、思考することができる力が求められています。私たちができてこそ子どもたちにも教えられると考えます。コロナ禍という新しく難しい状況であるからこそ学べたことを活かして、教員という夢に向かって努力し続けたいです。

第二の人生を生き生きと

エンジョイ・ミュージック・ライフ

糟屋支会　S54卒　小学校社会科　白水　明

大学在学中は、軽音楽部に所属しました。卒業後、小学校に就職してからは、学級の歌や行事などの曲を創り、子供たち、同僚、保護者の方々と共にいろいろな場で歌い、演奏させていただきました。

個人的にも、友達とバンド活動をしたり、曲を創り、一人でギターやドラムス、ベース、ピアノなどを録音したりして愉しんでいました。

教職最後の任地、新宮町立相島小学校では、保護者をはじめ地元の方々と共に、島のためになることを実践するボランティアの組織を創ろうということになり、「相島ドリーム・ワークス（ＡＤＷ）」が発足しました。まずは、島のことを近隣の方々に知ってもらおうということで、「島でコンサートをしよう」をスローガンに、イベントを始めました。中学生や小学生が島のガイドをする「島ハイキング」や漁船での「島一周クルージング」、地元の産物を使った露店も出されるようになり、「相島、春フェスタ」という島のイベントになっていきました。

退職後も島でＡＤＷの活動やバンド活動ができるようにと、当時のＰＴＡ会長さんが借家を探してくださいました。ＡＤＷでは、町内のイベントに海産物の販売をするブースで参加させてもらったり、島の若い漁師さんたちのイベントのお手伝いをさせてもらったりしています。時々は、漁のお供も。

近頃は、過去に創った曲の中から選んで、１枚のＣＤ「若気の至り」を作りました。次の誕生日には、新曲を含めた「フレンズ・老いの愉しみ」を仲間とともに作成する予定です。

退職して５年目、自分が愉しめること、喜べることを精一杯やり、それを周りの人にも喜んでいただければ、一番かなと思っています。「毎日が特別の一日」「今が一番愉しい」と感じられるよう、ゆったり、のびのびと生きていきたいと考えています。私を育ててくださった福岡教育大学、軽音楽部、ありがとうございます。

「相島・春フェスタ」　野外ステージ　フィナーレ

第二の故郷　ペルー

H12卒　小学校国語科　野口　摩美

大川市での教員生活の後、2007年に私はペルーへ渡った。

父に連れていかれた国、ペルー。当時私は９歳だった。清潔で物に溢れる日本に生まれ育った私には、信じられないような国だった。飛行機を降りた途端、町中が何とも言えないトイレ臭。首都とは思えないほどの暗闇。市内へ向かう道程は砂漠。各所の検問所では検査官は自動小銃を携帯。早く通してもらうための賄賂。すべてが衝撃だった。

画家としてお世話になったので、少しでもこの国の力になればと、父は学校を寄贈するようになった。これはフジモリ元大統領の「発展は子供への教育から」という言葉と、父自身が教師だった経験から始まった取組だった。

父たちが、ペルーに建てた学校を訪ねると、子供たちは歌や踊りを披露し歓迎してくれる。保護者とランチも一緒に頂く。お礼にと、私たちは学用品などをプレゼントする。子供たちの人数分以上に用意していくが、いつも足りなくなる。ペルーの不思議なところ。しかしキラキラした目をして待っている子たちを思うと、それもまた楽しい。

ペルーというと、日本からの移民の歴史だ。

中南米では１番最初に日本からの移民が始まった。ブラジルよりも早い。去年120周年を迎えた。

当時の日本人が直面した環境は、筆舌に尽くしがたいほど過酷だったと聞く。それでも誠実にペルーのために尽くした。そのため、ペルーでの日本人の評価は高い。先人のおかげで、私たちは温かく迎えてもらっている。また、今では交流施設などもあり、日本文化の普及も行われている。かく言う私も茶道教室に通っている。

ペルーを知ったことで、日本の良さに気づくことができた。ペルーに住んだことで、ペルーの良さに触れることができた。伝えたいことはまだまだたくさんあるが、百聞は一見に如かず、機会があればぜひ１度訪れてほしい。日本とはまた一味違った体験ができることだろう。微力ながら日本とペルーがもっとつながれるようなことができればと思っている。

Noguchi 学校　クスコ　ワタタ村

現役学生教員採用試験の状況

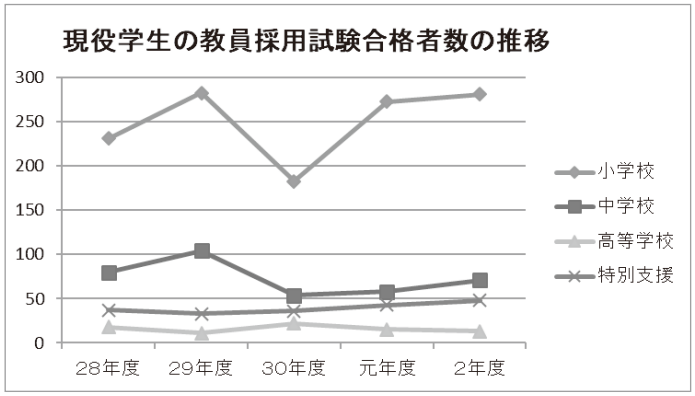
福岡教育大学　キャリア支援センター

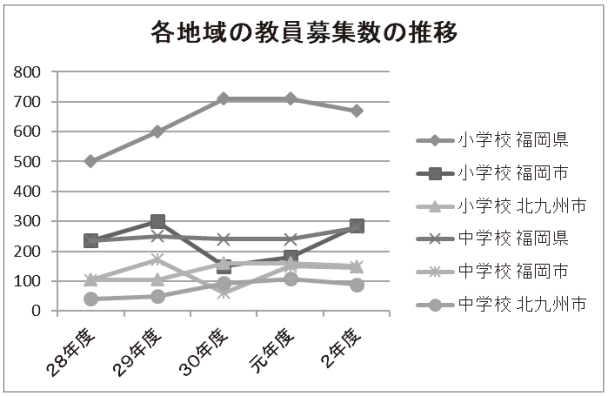
1．本学現役学生の教員採用試験の状況

令和２年度の全国の自治体による令和３年度教員採用候補者選考試験については、全国各自治体の新型コロナウイルス感染防止の取組の中で、日程や受験科目等に大幅な変更がありました。多くの自治体では「集団討論」「集団面接」等集団で行う試験が中止されました。

本学現役生は、そのような状況の中で、様々な不安を感じながらも、教員採用試験に向かって真摯に取り組んできました。下記のグラフは過去５年間の本学現役学生の教員採用試験合格者数です。数値は、延べ人数になっています。本年度の受験者の実数は560名で、最終合格者数は実数380名（延べ415名）となりました。最終合格者実数は昨年度とほぼ同数です。

教員募集数は、県内では、福岡市の小学校は大幅に増加、福岡県中学校、福岡市高等学校、北九州市特別支援学校はやや増加しましたが、福岡県小学校・高等学校、福岡市中学校、北九州市小・中学校は減少しました。





2．福岡県内の教員採用試験の状況

本年度当初は福岡県・福岡市・北九州市の試験日は重なっていましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、北九州市の１次試験が中止になったことで、北九州市と他自治体〔福岡県・福岡市等〕との併願ができました。結果として、北九州市の受験者は倍増しました。また併願による辞退者も出ました。

福岡県・福岡市・北九州市の合格者数は290名(含併願)（昨年度は266名）でした。合格率は、全体的には向上しています。

本年度の結果を踏まえながら、キャリア支援センターでは、本学学生の希望の進路実現に向けて、就職支援活動の充実を図ります。

過去５年間の本学現役卒業生の福岡県内の合格状況（令和２年度は令和２年11月10日現在）

	実施年度	小学校					中学校					高等学校					特別支援学校				
		募集人数	出願数	1次合格	最終合格	合格率	募集人数	出願数	1次合格	最終合格	合格率	募集人数	出願数	1次合格	最終合格	合格率	募集人数	出願数	1次合格	最終合格	合格率
福岡県	28	500	128	109	90	70.3%	235	95	55	42	44.2%	148	48	16	14	29.2%	60	20	14	13	65.0%
	29	600	154	137	125	81.2%	250	86	44	40	46.5%	161	54	10	7	13.0%	80	21	17	10	47.6%
	30	710	113	107	98	86.7%	240	65	41	26	40.0%	172	59	22	14	23.7%	110	15	10	9	60.0%
	1	710	163	148	139	85.3%	240	61	44	34	55.7%	180	43	22	9	20.9%	110	26	21	15	57.7%
	2	670	127	123	110	86.6%	280	59	42	35	59.3%	177	45	19	9	20.0%	110	23	20	15	65.2%
福岡市	28	235	111	68	44	39.6%	103	61	36	17	27.9%	7	1	1	0	0.0%	43	17	16	11	64.7%
	29	300	170	124	90	52.9%	171	119	66	38	31.9%	6	1	0	0	0.0%	60	29	24	15	51.7%
	30	150	73	42	24	32.9%	61	43	22	2	4.7%	8	2	0	0	0.0%	70	16	15	8	50.0%
	1	180	54	34	23	42.6%	150	23	20	7	30.4%	2	0				70	11	9	7	63.6%
	2	285	53	47	37	69.8%	145	22	14	10	45.5%	6	1	1	0	0.0%	70	8	8	7	87.5%
北九州市	28	105	33	28	22	66.7%	40	22	12	7	31.8%	福岡県に含む					25	5	4	3	60.0%
	29	105	12	11	9	75.0%	50	27	16	8	29.6%						45	3	3	3	100.0%
	30	160	25	23	22	88.0%	93	21	13	10	47.6%						50	6	6	6	100.0%
	1	160	30	24	23	76.7%	108	13	6	4	30.8%						50	6	6	5	83.3%
	2	150	61	61	44	72.1%	88	22	22	12	54.5%						60	13	13	11	84.6%

令和２年度　役員等の名簿

◆役　員

会　長	太田勝視
副会長（福岡市）	阿部二三子
副会長（北九州市）	西岡幸則
副会長（福　岡）	釜瀬　計
副会長（北九州）	日髙孝一
副会長（北筑後）	矢野俊一
副会長（南筑後）	安徳和幸
副会長（筑　豊）	西園雅幸
副会長（京　築）	尾崎和人
副会長（高　校）	井上善隆
副会長（各　県）	角　正武
副会長（女性部）	竹井久美子
副会長（本　部）	谷　友雄
幹事長（本　部）	田中和隆
副幹事長（福　岡）	安部常美
副幹事長（北九州）	大竹ひとみ
副幹事長（北筑後）	矢野俊次
副幹事長（南筑後）	鶴　欣二
副幹事長（筑　豊）	松原　潔
副幹事長（事務局）	鍋島直明
	笠　宏照
	肥後弘美
	中島健次
書　記	執行利雄
	島添幸治
会　計	穴井仁人
	古賀真理子
事務局	大森美香

◆会計監査

福　岡	因　征四郎
北　九	平山　志
筑　豊	立和田正美
筑　後	猪口有三

◆大学支援委員会役員

委員長	今林　久
副委員長	中岡晴彦
	松井明子
	中島幸男
	山本直俊
	清武　輝
	城後武史
	松岡　賛
	杉下　守
事務局長	毛利公亮

◆幹　事　◎：部長　○：副部長

組織部	福岡市	小﨑俊司
	北九州市	多久和　潔
	福　岡	古藤浩二
	北九州	◎垂水　隆
	北筑後	香月　浩
	南筑後	馬場英二
	筑　豊	○國本裕介
	京　築	宮内裕美
事業部	福岡市	大戸和廣
	北九州市	井上勝美
	福　岡	◎有馬昌一郎
	北九州	秋山須賀子
	北筑後	大神哲和
	南筑後	坂本延生
	筑　豊	山本　穣
	京　築	○小林正尚
広報部	福岡市	岩下優子
	北九州市	江口恵子
	福　岡	松尾克己
	北九州	髙宮久生
	北筑後	◎上野幹久
	南筑後	○横大路智毅
	筑　豊	江藤涼子
	京　築	入江勝美
女性部	福岡市	○西川圭子
	北九州市	守田孝子
	福　岡	段　美穂子
	北九州	井上俊子
	北筑後	◎野口千恵
	南筑後	馬場直子
	筑　豊	青木由実子
	京　築	泉　恵美
	高校等	田中浩子
青年部	福岡市	◎中原大樹
	北九州市	桑園正憲
	福　岡	○辻　聡一郎
	北九州	中村芳雄
	北筑後	関　和浩
	南筑後	○平井陽伸
	筑　豊	上杉直昭
	京　築	○森山隆太

◆支会・支部長

福岡市	支会長	中村親良
	幹事長	杉山大樹
北九州市	支会長	髙木　眞
	幹事長	倉方寿士
福　岡	糟屋	髙田竜也
	糸島	木村英樹
	筑紫	松下義彦
	宗像	水﨑浩克
	大学	笹原浩仁
北九州	遠賀	矢野真也
	中間	山中栄夫
	鞍手	野副秀二
	直方	與古光宏
北筑後	朝倉	吉田英雄
	小郡三井	酒井美和子
	浮羽	樋口則之
	久留米	野田　晃
南筑後	三潴	牟田口達朗
	柳川みやま	坂本昭夫
	大川	今村通博
	八女	東　博臣
	大牟田	松尾博之
筑　豊	嘉穂	内藤正登
	飯塚	内薗雅浩
	山田	古賀修治
	田川市	窪田睦朗
	田川郡	角﨑計介
京　築	京都・行橋	上野　誠
	築上・豊前	篠田宏記
県立高校	支会長	城戸英敏
	幹事長	木村賢二
佐賀県	支部長	青木一記
	事務局長	白水久夫
宮崎県	支部長	南中道隆
	事務局長	大久保朋広
長崎県	支部長	中原弘之
	事務局長	並川和彦
山口県	支部長	重枝良明
	事務局長	町田英利
熊本県	支部長	岩下佳史
	事務局長	岩下佳史
大分県	支部長	岩尾　亮
	事務局長	伊東伸一郎

本年度の実施事業

４月16日　会計監査会（４／12予定を延期）
４月17日　全国緊急事態宣言発出
４月29日　第４５回定期総会（中止）
５月15日　総会議案書送付し書面会議実施
９月19日　第１回役員会・30周年記念誌編集委員会
10月10日　北筑後地区拡大支会長会
10月17日　北九州地区拡大支会長会
10月31日　南筑後地区拡大支会長会
11月　７日　筑豊地区拡大支会長会
11月14日　福岡市地区拡大支会長会
11月29日　第２回役員会（延期）
12月12日　大学支援委員会（中止）

※　以後についてはコロナウイルス禍中にあることから未定です。

編集後記

二〇二〇年（令和二年）は、新型コロナウイルスの世界的感染拡大という災厄の年となりました。緊急事態宣言による外出自粛の要請により、城山会においても総会をはじめ、多くの行事が形を変えたり、中止に追い込まれたりしました。

学校や大学もまた、長期の休校を余儀なくされたところです。そして、休校解除後は、感染防止のための対策と併せながら、教育活動が再開されています。オンラインによる授業もその一つです。

会員もまた、不自由な日々の暮らしの中で、生き甲斐感を持って生活をされています。困難な状況下での会員の姿を会報誌において紹介し、絆を深めると共に、目の前にある危機を乗り越えていく活力の源になればと考え、五十一号を発刊することに致しました。

（上野）